© The Tiffen Company, 2000
KODAK Gray Scale
Kodak
LICENSED PRODUCT

本草綱目 巻之十

1765
28

145

利々門
1765
28

以下別頁

和名類聚抄巻第十八

雜類十

草　竹　藻　苔
昆布　山橘　海松　藻
鞭草　蘆　海藻　薑
蓬　愚草　忘草　百方代草
白蒐草

改頁

余古草　水　菅　茵　淡菜綿
小蓼　藍　紅　紫　麻
萍　浮草　蓼　芹　水葱
母子草　駒繋草　犬子草　犬蓼
蓮草　蒐草　射干　莎草　芝
山菅　月光草　夕陰草　篤燒草　藻
多向草　芭蕉　莫呼菜　和布

491

4 華 三字下 三行分トル

人名数の内平安屋門跡寺 法華経 摂政

さほうのかりよく 杖のうへにいられ 津ヶ とて まいりて

いそ れ ま メル

源氏物語 名 合 あ ま のつひいそ る ま

よ こ ん 系

須 陰 の 遠 乃 弱 々 つ め る い そ る ま け こ ら ひ ち な ま こ そ

陰 ま 落 に ま 舟 ふ の る ん ま た ま り く づ れ ま く

し ち ら 不

沖 ま は る こ ち ら り よ す る と ま に い と く ち ら ま ら ま ら ま

宗旨 摘録

濱辺

ひ ろ ん

492

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1493

[illegible]

千五百番の合　法二位家隆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新六五

家集　陸文歌イ

里人の引きしめの竹の竹の子の絶えてのちもあるなる

家集　野遊イ

竹の末ふまにまけて春の来るうぐひすの鳴くなる

隆祐朝臣

春の社百首

竹の末にうぐひすの鳴くなる

二条百首

春の来ぬとうぐひすの鳴くなる

俊家朝臣

家集院

野辺

竹の末ふまにまけて春の来るうぐひすの鳴くなる

家長卿

同

竹の子の生ひしたみちの雪の下に春の来ぬとうぐひすの鳴く

藏人

従三位　藤原

春の来ぬとうぐひすの鳴くなる竹の末ふまにまけて

百首

同

うぐひすの鳴くなる竹の末ふまにまけて

鈴

家長卿

家長二年百首

竹の末ふまにまけて春の来るうぐひすの鳴くなる

正二位　知家

竹の葉もそよとも物もそらにみさるれの里の中人家者

百首中　　従二位　藤原

ひさしかの竹はまさきのかつらにもあらぬ人の心をかけて

御堂関白百首　　仲実卿

いとへのせのうとさひさしかるみかとかさして年をへにけるかな

嘉の葉竹の子氏行さるのさかりにはつかりけりとて

赤染集　　大江匡衡卿

竹のうら葉のうへはめさけはるとかのうへのたかしとて

ふるとへとうつ

日　新古今　　光俊朝臣

竹をうへてめくらすそなたやのうへにかかれるかきの

内侍歌

新六六

いとうり雪のしたるくけのこの根やそうへのこうもりけり

文應元年七社一百首　試歌　御

いはくらの竹のうへにそうへのこのなりにけるかなもりけん

弘長元年百首　吳竹　　俊光卿

年ふりて見るかひしはしのうへの竹

宝治二年百首　　定信卿

六十二

くれ竹のうへの首尾けるそしるしあれるうへ

宝治二年百首里竹

496

見しらせいかなるこゝろ露てゆくすゑのしらつゆ

従二位　藤原氏々

百首哥

月のあはれ　おのゝ四れ　いつとなくあはれ　ほの

八月十五夜月哥

月をまちてこのゝ　ちりの　ちりぬるかぜ

前中納言　宣家卿

光厳院入道二品親王百首哥

ひとりぬる　川　ゆめ

従二位　藤原氏々

ふけてゆく　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

文治二年歌合　常盤井入道太政大臣

ひとりぬる　なみ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

洞院摂政家百首　従二位　藤原氏々

ゆめ　かは　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

建久元年百首哥　常盤井入道太政大臣

ゆめ　玉　ゆめ　ゆめ　ゆめ　なみ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

三宮社百首哥　摂政太政大臣

なみ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

長方

あさやけ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

人丸

ちひろ　を

天元四年四月中宮定子内裏歌合

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

こうこのつぼね

ゆきまさぬりのひとり　竹のそこうにねさすこうこのこころ

久安百首　笛竹　結賢門院堀川

笛　ふえ竹とねたてふるすいさんつるのあるもとうやまうん

長承三年六月常盤井殿歌合竹風俗

ふえ竹よみすのうちにねたるこえ　皇太后宮大夫俊成

ふかぬ笛　音

ふかぬ笛　笛

ふえ竹のうちにいねのちとせにぬやうん

ふかぬ笛　笛

ふえ竹のうちにいねのちとせにぬやうん

垣　ね　新六

ふえ竹のうちにいねのちとせにぬやうん

建保三年内大臣家歌合竹風

従二位　家隆卿

たけ

たけ

竹

竹

竹

たけ

ほ

洞院摂政家百首　常縁卿入道前宮内

井イ　竹　園

かた　似す

嘉永三年七月廿五日奉行内侍

源仲正

叩

ゆふされは西のそらなる雲やとりのさとそなびけす

題不知

百首中

こゝろ

人々に赤よりて西の行のゆうまんをたてんよう

賀茂社百首内

渡

あつ宮よりのうせんの行をもとれはなを

おろし

ようこんをもとめ

埋

なる

ひとをもとめたるなるかな

五代

ふつ宮よりこゝろの行乃ゆうれてひとをもとめたるなるかな

弘安三年家百首　安嘉門院四条

民部卿

千首中

若

山ろのさゝひしるのくもの行のまりくしてそやすきん

老

遠保元年七月廿日

なる郭院少納

西

中のうこゝのうのそるうたの行のてたぬなのうたい

499

六帖部

うするゝ雨ふるゝ垣のあるゝ所まうけてゝもとやもるゝん

六帖部 から行

正三位 知家卿

日かゝる行のゆえよまくてゝ山の櫻さくらゝ風ふきけるゝ

建暦七年歌合千首之内

光俊朝臣

うゝ行のすゝんとすみ風ふけのそゝゆゝまゝ見ぬ道忘やゝ

人丸

藤 三行分九

別妻恋

万二十 新古

さのゝゝゝゝ月せさやゝゝゝゝゝゝ

よゝゝゝゝゝゝ

文永五年毎日一首中　同

[illegible]

家集第三

月きよみ　霜　従二位家隆

洞院摂政家百首　同

秋の夜の月やまつらんさしのぼる

建保六年内裏百合　順徳院御製

むさしのや草のはなかつみ　枯

[illegible]

安房の国守

[illegible]

[illegible]

百首歌

[illegible]　同

[illegible]

拾遺愚草

家集月前

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保七年家千首　第六帰雁

[illegible]

寛治二年百首歌　　左近衛院四条

雨の音のさやかに聞えしかはらぬ

俊成女

そなたをやかたとうの尼やさしいかはらぬ

君代

はるの夕月夜

はるの夕月夜

はるの夕月夜

I 302

[illegible]

家[illegible]

山ほのいら[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀

三行ハカトル

延喜四年四月廿日

賀

うけ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ん[illegible]あらん

延喜七年御屏風

祝歌

続古今賀

家 六四

[illegible]

うけを

六四 六二

新古賀 躬恒集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あくむしのうたそのこけむしろこうるゝみとものそうしん
千五百番歌合　第中納言家歌
ゆくえもなくしたりのけんいふゝへよこの病のいとの苦しさ
保安二年九月内大臣家歌合　題歌
恋後
岩のとのうけのまふとたにおちつる水とたにくだるとこけるやいとう
義久元年内裏四首合題歌
法二位家歌
あかつき面ふかき苦のもゝこけてゝりけさいれぬの事よりまそ
郁芳門院
郁芳門院

あくむしのまたりさ行のさりうけたるゝみとりよ年ひふりめる七
ちはるのうくさうけを　中務卿宮歌合
うたゝうくさゝふりよけるゝ苦の苦ふるひさやまそ
四条中納言
ゆくさきすその山乃ゝ人たちにけるゝちるまうこのしたる家
寛治二年百首のうくさゝの苦
後拾遺抄
後拾遺ゝ人のたゝるわやゝにうくて小苦のけさしろ
月
すゝうこのうくうのゝきにうくるのとうゝ道ハ苦しほとよう
永久四年内大臣

円

まつとてさきれ侍るのきしをすんなりのうけはとうけめさむ
しろ

藤原為家卿

三行分トん

六帖部

日ふけてのきはのつゆ世にたまりつゝあるうき世をけてはまつれしや

円イ

百首歌中

光俊朝臣

軒端

六

新古今

さいりやまのトくてきれる山にあるくらうきはるけまよかな

百首歌中

為経朝臣

浦のうらきねのおもひはまことにまこともろてすはるけまよかな

ひるげ

ふくんたる

505

後鳥羽院御

ふるさとの秋のいろこの山日うけむしのこえはてそうる

日ふけ

寂蓮法

あるしらぬ日ふけのうらちかくなりてそとのさいたる

千代

少女

部屋

中納言家隆卿

秋宮の夕ゆけまの白つゆのけぬるにしらなかゆるゝ色

内蔵頭百首

後二條為氏卿

ふるとてまつすむ宮のうへよりはなるみすこしまあれ

生

草

三行分トん

山橋

部屋

人丸

万葉七

ひさかたの空行月のかつらをしぬるんとそのて

イキ

百九 けのこり花ゆきにあへてるあしひきの山ちかうなつとよつみ

よこちくだ

物語

六五 百四 あしひきの山ちかうにいでつきてあつの河まあらん

貞應三年一百首　　國々内裏御

出るうるみつちるのけみてそこまてすあるこゑのやりかな

六 百六 月 ありまさるけ月のそこのうきそきいふちそれのうちもうに

西三位知家卿

月 現存六 出るまいみよりもわけもとうのふちるのうきかいた

信實朝臣

三行人カトル

四 濱菅 三家 芦 鄙茅 三行人カトル

よこちくだ

百十 秋宮のあさちうえつふれ　左 ふれりのなにしいのくいはもちうら

月 ちうつとのあさちうつ　浅芦 月 ちうつ畑かりのうちうつ　上 人河あつて

橘積自子

百八 秋ちきいちりぬ　ちたちう イ わのうとのあさちうえのちりわうれい

よこちくだ

六六 河宮

河宮にたちうとのく秋風あさちうけまつ　お とのうはしうと

ほとときす

東三條院の花薫る門

源俊頼人歌集

飛鳥 わもしもとの秋よいとあ　なり　け　原　りあさちうわりのうちうつ

ちれい

七

507

恋

さらぬだに秋の千月(くま)のすみ月けに(に)あさちの色をつまもつる

赤人

百六 野の陸奥(おく)のあさちがすゑなる夜(家)ふかくこそ丑(ゆ)ふ南(ゆ)

百七 あるうてをれいとひるんいなきよりあさちの上(に)をてる月哉

貞応三年名所百首　藤原為家卿

おとの所をうめる秋のさひしいるのの(伊南野の)あさちをすゑにかれ

三首六十首中　恋

為忠

残(ら)ぬ恋をうのあさちが原のすゑよりれそはかり

雑部中

現存六 今 ちるもみぢをうれているのあさちをすゑにひまもなく

三首歌合萬　寂蓮法師

あさちふ原のいろにあるものをきはのうつさはうちの河面

洞院摂政家百首　光俊朝臣

ある君のうるはしくあさちの(たなん)ものをもはかの法師

永暦元年八月法住寺殿後白河院御所合雪　源雅重朝臣

みちすがのくものをとのもれいあさちをすゑにあれる白雪

文集百首　菅中納言定家卿

家をしるかのあさちの白妙に秋のよもぎの露

月

おもしろかるべき景色のあさちはつゆにうつる月をみるかな

山寺に名文集百首黄茅思頭秋日晩苦行嶺下雲自低

和元年十月行蘭四会　為経卿和歌

家をしるかのあさちのあさちはらけふ秋の長月

白妙の袖の雪のあさぢ　中務卿宮歌会

うゑわるあさちのあさちの秋風をまちもとめてまちうしの

鄙の和

春日野の文意元年七社百首　民部卿為家

秋風いたくふきあらすあさちの露よりいたにをうえん

文永十年毎月一首中　月

秋の来るのあさちの露のうつろひやすくもあるかな　小野

文意二年毎月一首中　月

おもかるのあさちの名をうれはあさちまさるよの月かけ

羽院御歌百首　為中納言宮歌

おもかるのあさちの名をうれはあさちまさるよの月かけ

百首四十

武百内裏

続千載雑上　伏見

あれまくりあさちの里のあさちうめすさつのかてる秋かな

建保三年名所百首　西行法師

むさしのゝあさちをつくいまやとをさむの衣うちするゝ

信西行意

あちちの山ゝのあい書いるんんあのあさちうちかれけり

枯

家集百首中　法師西行

送二位殿陸奥

あちちの山ゝのあい書いるんんあのあさちうちかれけり

蜻

三字

三行人名カトン

茅花

名所部

あちちの山ゝのあい書いるんんあのあさちうちかれけり

蜻

啓々西面郷

月

田新たれすしさゝ山のあさちうちつゝなひきて風ふきぬ

茅中風さ西面

さ

題不詳

あきはぎすすしさゝ山のあさちうちつゝなひきて風ふきぬ

同

名所部

あきはぎすすさゝ山のあさちうちつゝなひきて風ふきぬ

つれなし

家集三百六十首中　為忠

白

けるる家

はるれぬあさちうちつゝなひきて風ふきぬ

原

家集三月名所

春雨

茅原今月見

はるれぬあさちうちつゝなひきて風ふきぬ

東三条院中

つきかぬ　かのくらの　たかすみこれる　ものもの　さかりて　かすみ

片野の原　壺　匡

第中納言道房卿

縵蔓　三行人カトル

巨勢命婦

百二

たかさこの　ときわの　ときさて　うすあかこと　ひとあらし　そなを

花　五

ようこそ　ちこ

百十二

ゆ　後

なこそ　ちの　ときわの　やまの　ふもと　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

丹波路　大江　元円

遠保三年九月百首　第中納言定房卿

ちーイ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

あき

ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

西三位実房卿

ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

つ

大江

ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

遠坂

ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

文永二年毎月百首中　藤原為家卿

ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

お　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ　ちこ

ちこ

511

[illegible]

[illegible]

[illegible]

512

家集百人一首中　法印定覺

去世ちかくなりぬとて　あと
ふるさとの人のもとへ

百首歌

月ふかし　て　け
思ひそめてまさりもすると
ながめかな

千首

恋

恋五

家集百首中　民部卿為家

恋歌

恋五

なれそめし　ところかな
なれぬ
あはれ
ながめかな

家集百首中　源仲正

霜　野原

ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの

513

[illegible]百貫[illegible]
[illegible]のうちはつかて[illegible]の[illegible]
[illegible]百貫[illegible]
同
[illegible]のすしすきの入江のあ[illegible]
建久元年毎日[illegible]
[illegible]のうらぬのさうにたつ[illegible]
文永二年毎日[illegible]
[illegible]つきのよれまのたつきのけさ[illegible]
[illegible]
[illegible]百貫
[illegible]
[illegible]

建保三年内大臣[illegible]百貫[illegible]
後二位藤隆[illegible]
[illegible]
[illegible]

あけてこそあしの葉乃ゆしてけふこのとこに秋いこの行り

藤原為家朝臣

藤葉

見わたせいあしもおなしこしらりあひてこしらしこ初江

百首哥

春後

春風に志ほれはこそ流あしの花こそ春と成なれ

中務卿尼

四季

藤

續古今西

さらさらに井てこそあしのうらかれ夜やちらりてこそ

家集

藤

さらさらにあしのうらかれあしの葉に秋かぜ吹ハ

曾丹集

枯

たひ乃浦のうもれあしの花ちるかけさすなる人ハ

冬

百首哥

鶴

志ほ干のあしの葉うらにおきすなるなるのうらに無流れたる

俊頼朝臣

七家

浦

藤分

枯たる浦のなかれの葉のうらかれあしのこゑにまかせて

三ヶ月

ほ干ハ浦の風にうらかれあしの葉乃ゆ入りて

冬

枯たるうらとて初やさびしさ成つ入りてくるとこそ

百首哥

藤葉

水鳥

あしのうらかれぬらんあしの葉乃ゆ入りてすさしうつのの月

515

961-976

後拾遺

永保三年十月恒子内親王家合蘆花

源俊頼朝臣

[illegible]

西江花

[illegible]

有けり

寄蘆

[illegible]

蘆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

難波

なにはえにすまひのなくこゑもうれしきはるのうら

藤原惟信

為奇中

年ぬのあはにうらかぜにうきてよるなみ

右大臣

千五百番奇合

堀

すみよしのはまにおりたちてかなつみ

法橋顕昭

君

なにはがたみをかへりみるあしのうらにあまをとめこそ

藤原俊成

正治二年百首

波

なにはがたはるのはつかのあけぼのに

皮京極摂政

久寿元年十七社百首

藤原俊成

遠保二年内裏歌百首水鳥

大義々の歌

いり

やまがはのうきすのうへにかりをきてあけぬるかぜ

汎安三年彰徳殿文百首

おく

ゆふぎりのたちのぼりゆくあしのたまもにあきのかぜ

鄭仲和

十四

万安

うるとあしの葉の中なる水すけりこゑせこしのさ

藤原

円

517

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よろづ
よろづ

左京

伊勢たうしの
みやこまでもきこえあるなり又なきこえもきこえ
あるなり

同

良玉打寄
ちくさのうらのうらのうらのうらのうらのうらの海の浦のうらにうらもとめ

同

藻 三字ト 三行分トル
一万七 ちち川はに生 川 やこととてきにけりつとよせうと
五九 難波 玉藻 月 あはあまとあまとあまと

文永元年七月百首　藤原行家

ひとのよわりかはらぬ流のみつまさりてもとりあへぬ

仲算みこ

たにうちにくもるのくさのたのもしきかなしきぬれ

建長八年百首合　光俊朝臣

あさのうらにいかつりてをしみてをしみてをしみて

刈藻

葉

孫子内親王家歌合　池水一字千載

人恋

花に

恋ほれる

いけにすむひとのわらはあやめかるかりそめ

藤原為家

万三

たまくしげふたとすきて夜をのみまちあかすかな

長方

万二

ふるとりのあすかの川のわたせにはたらせしも

同

流れわび

家集寄月中

いけのうちにすみてしてあるかはらてあるれまかるん

玉藻

光俊朝臣

居濱

万六三

ふるさとのうらのはまぢのまさごのうへにあけしあさぎりのこと

浪際

元

藻

三行分ハ

藤原為家

520

百十一 [illegible]

二百六十首中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねんぶつ結衆百首

同三年九月百首　　俊成卿女

玉葉集
あとしらぬこころのうちのまもるかな　ふさ
　　歌集こうかのこと

西行法師

かりのうたうのまうさよくうてみけるうちに　任　蛙かな

蓮　直
三行分ハ

文治六年五月百首　　皇太后宮大夫俊成

直
かりてあるれ　蓮
ものいはぬふなたにうれてなきあれのこのこゑや

前中納言定家卿

歌集

52

和歌の言葉はいとうへとこそやうんあれすなちのよすがらのけ　わか

毎日一首中　　藤原為家卿

さうてわさのうちふのうきふのうきふのうきふのうきふのさ　月
ふくこゑしあやあうるくふ　月　月　月　月　月　月　蓮生
きまうこぬ　月　月　月　月　月　月

西行法師百首　　前大納言忠良卿

[illegible]　　信實朝臣

[illegible]　　同

[illegible]　　藤原[illegible]

[illegible]　　[illegible]

蓮

[illegible]　　隆祐朝臣

為家卿家合　　後二位藤原[illegible]卿

[illegible]

思草　三行人分トん

[illegible]　　仲資朝臣

百十

為家卿家合

[illegible]

[illegible]　　仲資朝臣

[illegible]

遠保三年百首　　正二位忠宣卿

[illegible]

同年四月百首　　正二位藤原[illegible]卿

おもひよそへてしらるるものをおもひこころをなぐさめんと

同年十月十五日曉閑居同

あかつきの空はるかにすみわたりたかきこずえにかぜのおとすなり

遠保元年十月十六日

第中納言定家卿

おもひやる心はるかにすみのぼりにまがかなしき秋の月かな

霜月

霜にこそ年ぬる松のかげ見れ秋の家のいろつよしとて同

草

ちぎりおくすゑはいかにしらねどもこのうつりかはるこころ

信

隆祐卿

同年十月百首

あさぢふの家のまがきにかぜふけばいろかはりゆくこのはのみかな

七

保

光長院入道二品親王家百首前宮内卿

法三位花宮

いろよりもこのはのみかはるとてとはぬ人をぞうらみはてぬる

新六

人をこそ思ひ出でぬれ思ひ出でぬ人をぞうらみはてぬる

忘

思ひ出でぬ人をぞうらみはてぬる

左兵衛督

六帖六

拾雜上

うらもなくいつくすすまのひとのこころをたれかはしらぬ

甲 524

長草と　　中納言重俊卿

かゝる所にてなくさめん者とうらうるこゝろのこと

遠保四年百首　　前中納言定家卿

下紐

ちぎりのゆふてもたのめさうひ長とすゝるこゝろさしやつけん

新古今年百首　　藤原為家卿

紐

ちぎりのよつけるこゝろまいるのうてこゝろよりねる人のおもひ

百代草　三行分ハ

白首歌合　　法橋顕昭

百代草

ちぎりよまりてよまてるたのめん　　刈初め

刈初め

のこゝろ

光俊朝臣

かゝる所にこゝのその四つ百代草をよりてひ独ねとて

白慈草　三行分ハ

百首六ちるこゝろ　　前参議雅経卿

ちぎりのあるよ五月の夜のすまのまをうてもあるこゝろ

ものかなし

浮

永仁元年御百首　　為忠卿

すまひるる秋のこゝろのゆうをうてうる花とちらるこゝろ

余所草　三行分ハ

ちぎりの　　藤原定家卿

おうる葉よりれるしなのあるこゝろ

箱根

人丸

五十五 あしたの中のほとゝぎすやとなれとあらてへよとゝ

ホ

よゝ人さだ

五十六 こゝさへ神もゆくもしらぬ山さくらのくもるもの色よりゆゑ

四 あさうかたもの山のやまよりつゝへけらる花の色

西三位家隆

六位歌

あさかくさ時雨 又色 ゝこそこゝゝとゝ

菅

家集

ものおも

ゝゝさけゝゝのゝゝゝゝゝけとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

和泉式部

天暦十一年侍所右方歌合 山菅

よゝ人さだ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

526

新六〇 菅根 同 片淵 名 中

すがのねはしへなくらしうらおもみ
ふるさとをこそかなしけれ

同新六〇

拾遺四五番

ふるさとは潮入江のうらなれの
ひもあへとうら遠
人丸

万十二

やまもとのかつらのすけ小菅おしてまとよりとんかたもとなる我
百首寄

法橋弘恵

さりともなをうらくやしかるのいはつ域小菅すけつ
百首寄

西之住吉住人

ゆくすえをいつのたなもとすけの菅ますけ元
千五百番寄合

野宴寄草

ゆくすけのいそりとすけ乃ふるのみいろもうぬあるよん
西園寺入道左大臣家三千首

住之住吉社人

あしつゝ芦のうゆきい吉野山すのひもろさ乱そ
西治二年百首

藤原定家朝臣

あしやをとうそなうゝ吉野のこゝ風うすけ菅のうゝ社
新古今

ふる人こゝ

万十一 三吉野の

みよしのゝこゝ風うすけ菅あまなくたりのこゝろてられ乱 同
万七

春日山やまたうらのうへのとをよのうんと月まちそこ 同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

528

五十一
足ひきをやまいらむとのやまのいそすけのひよ郎かさそひ
五十二
あさいのゝすらこすけねうゝれてゝれゆくすらこれらひさ人

千首哥

あさいのゝすらこすけねうきこてねよもてゝ一乗あしゝ
あさいのゝ〻〻家乃ちゝすけうちうゝ〻〻てゝれてゝ水きぬゝそ

歌集

ゆゝはなゝ乃ゝのいそすけぬゝとさうめゝ山そみゝる

六帖歌

家集

川歌六
山陰のゝうけのゝすけ年ゝ〻〻てゝうゝ〻〻ゝもゝひゝゝうゝ

正三位知家卿

日六
ゝゝ〻〻のゝゝ〻〻めゝ〻〻ゝ〻〻ゝのゝ〻〻ゝ〻〻ゝ〻〻

たのもの

萱　三行分トル

郭公

万葉

かりそめのわがやどのはぎのはなのうつろひやすくもあるかな　川上

根白　萱

家集寄草中

根白　萱

とりこもりかりそめのやどのはぎのはなのうつろひやすくもあるかな

久安百首

秋ふかみ

秋ふかみ

この野の萩のうつろひにけりなあらしの風の色つきにけり

橘実忠

梅酒大弐

文徳実録

文徳のくらゐにつきたまひしのち

嘆

きさらぎ

ねよりもとなれさるものや

寒

かりそめ

百首歌

寂蓮法師

ありあけのやどのはぎをけふはてうつろふ秋のゆふかぜ

文永五年毎日二首中

二イ

郭公

あらしのやどのはぎのはなのうつろひにけりなかりそめの山ぢ

十首会

月

よしさらばいかばかりなるこころぞとはるのやどのはぎのはなのうつろひ

花の千首会

前大納言忠良

乱

むしのねもあきのすゑにはたえぬるかなはぎのはなのうつろひ

題

三行分トル

イ

演宋綿

濱

人麿

面

人丸

浦

はぎのはなのうつろひにけりなあらしのかぜのあきのゆふぐれ

十番百首

寂蓮法師

仁安二年二月清輝朝臣家歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小野妻　三行分トル
十郎百首　寂蓮法師

山かつのしまのたてつくりくめこそとのさとにはなれぬ

播川院百首　仲実卿

月さしそめけの野辺の白露よさしそけらるこころもぬれぬ

藍　三行分トル
新千載　よみ人しらず

人しれぬそこのうつもれのあひの花いろよりそこそや

百首歌　西園寺実氏

いくしほのそこのれりそこのあひの色なしれる井のうもれのむ

紅　三行分トル
新千載　よみ人しらず

たくまのこしられぬ井のうもれ水はなれはすくるん

同　藍

まくらくのしらぬ井すすきすすのまくれる井

紅

くれぬ井

新六五

くれぬ井のあさくなのうもれ水はなれはすくるん

紫　三行分トル
新千載　よみ人しらず

532

一月十二日

はるかぜのとくるのうちとみてもろいたなり

中納言家歌

月三

はるくるのうぶるぶるとくるさすしていろよりてこのけしき

麻田連陽春

万四

かくのうちもそむてくるもしたのんくるちてはりかゆるる

延長五年三月京極御息所宮合

よみ人しらず

今年

こしのうちのひそむめのうちわしるさきみてとなれそ

しらさき

ふるうてをらそふるれ雪のくはりのうちすかる

久安百首

前参議親隆卿

ひさしたのゆるくそもしてつかすつひのあひとあすつ人ちらぬや

紫

ちはる

秋六五

ひさしたいなるふてくるのうちれいことをうすさもういさ

ちはる

信

藤原為忠朝臣

月緑

見そりうりあるむくさこの衣さてはかくしてもむくしけり

藤

三行分ナシ

前参議

万十二

さくらあさの井の乃ちまあれいおけてをゆんあやいさるも

久安四年毎月百首中　藤原為忠朝臣

さくらあさの井の乃ちまのうちうりくるてをつくりうてをくらん

十郎百首

寂蓮法師

ちつのめさんすくしき酒とぬかさてあさちろ酒よのうた

久安百首

都勞門院安藝

あるものやちけこの秋このあさあるよなとゆめうちのたをぬんん

正治二年百首

如門内左大臣

かりこやすあさのこちゆえ麻ちつのすあちるよなれるけのしきい

家集

正二位家隆

秋ちひいらしかもちつすちつのめうあさのすさきすあのこうれよ

三百首中

好忠

我はもしあさのうひをとうれいち役よ見われて閉てすすきい

陰家

今

正二位家隆

ようこんこうこん

うちこうこ

ちりえのひまるくうけ深草のまなくこんいこりりけ

寛治二年百首

正二位家隆

さのこやいらこん年ちんうこ麻ちのねこうねねをいひも麻ちて

濃紫

帖

六郎

三行分トル

佐竹義長

ちれいみあこ年ちてふこ麻ちいそこのふりねをてあこん

正二位家隆

月

ちふこそこふこ麻ちわんあこのこてこ麻ひ

534

同

いけのよ行ふてゝ[illegible]のあさのこうきゝ[illegible]ひとゝゝ[illegible]

藤

六帖題

三行分かよん

衣笠内大臣

同

さたのこふ海をこのほとゝ[illegible]ゆ百さひき杜[illegible]

西三位知家卿

同

めつらかるほとゝ[illegible]家者よむ人[illegible]しの衣よ

信実朝臣

同

[illegible]

光俊朝臣

同

[illegible]

[illegible]

現存六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

555

かくこそ思ひすてのほどるる程はひとの
たくとりつるのおもしろ代

恵芳法師

くるのあるもとくしぬれば唐錦よそにまがへぬるかなこそ
えまかひける

三行分ト人

三行分ト人

新六六

永堂門左

あまもさりわさ四のあるせりのねさねんとうとひあ

慈々丸家

ひぬ中もあ四のあ女にひくせりのねをあつて絶ぬしけり

芹

家基卿百首中

西行上人

水蓼

三行分ト人

三行分ト人

新六六

永堂門左

ふるへて

沼

慈々丸家

四

寒ひさし甲の井とのあさのもりさしてみゆるひかり

光

四

西行法師家々

四

ものねさへこひちよぬまて侍代のこなさうしてまく

蛙

信実朝臣

四

菊代

なりつるの四つのあ女のうとうのさまてとりやまとけん

四季部　三行分ハ　二字ハ　家集

和泉式部

花のさとにつらなす春のたにたゝ清めるそこからぬそ

里　こころ

山寺僧正云右義孝わ[illegible]老おとこ[illegible]

よろこのもとにわくてそまつりてとこ

駒繋　二字ハ　三行分ハ

貞慈三年百首草　藤原公任卿

をちこちの海つるさわらけんくやけて

貞応三年百首草　同

名のこゑとゝ[illegible]

初雪　二字ハ　三行分ハ

貞慈三年百首草　藤原公任卿

ふりひぬのゝ[illegible]

筆かと　つ　けし

折敷草　二字ハ　三行分ハ

貞応三年百首草　同

れ[illegible]

鏡草　二字ハ　三行分ハ

貞応三年百首草　同

かゝ[illegible]

芦草　二字ハ　三行分ハ

源重之

海ちとりなくや海ちの[illegible]

射千

三行分トん

西行三人

藤生

のイ

ゆきとしのいさるるあれや庭の面にうすもみぢのちるらん

ケ

ケ 涉

渡り来

三行分トん

二帖題

新六六

ときわなるあきさるものこころりあり月日いそれとのこる

定家卿

円

ふるさまるいけのこころりのねもしひさうちの人のうるそ

待

三行分トん

ケ

ケ

江侍三二年内裏百首歌ニ有之

円

ふるさとのまん美るみちなのいとをしけるぶも

二二

藤原為家卿

内野の廿之生

いくよすんこころのこころ

三位親

西行法師家集

円

ちるさりしのこころの里よ花ろりて庭のこころ

ふる

同永

駒放

ひろ

円

へ

いろの風ふきかくしこころ里のひいねこしこころ

枯

円

こころ海ろこの庭ろ花ろ

ろ

ひと

ケ

内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠保七年百首歌中納言[illegible]

かはかみ

[illegible]

建長四年内裏十首歌合

[illegible]

[illegible]

現存六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

539

雜部中

[illegible]

西治二年百首　　皇太后宮大夫俊成

[illegible]

寂蓮法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

540

歌集

ひとくれひとくれあれくるる春のうれしきはかりなるのすさび　荒　鬼

三行分トル

海路春望

五

白浪のそこ迄払う枝のうめ花の咲くやこの頃

春雨

ふる雨に濡てとろとろの面白らん

ようこそ人をうぐ

ものくふ人うらめしうをとめよあつさうふる

たひけるまいとつもときてうるもとる

芭蕉

三行分トル

久安百首

前参議教長卿

歌集

四治二年百首

寄蓮法師

ちりけはあるらんかもあるらんぬ世こいふるや　知

西行法師

芭蕉葉

百首中

即々田歌

芭蕉葉

いくすりやそれ別れたるうるとふく秋風

鳴葉

三行分トル

莫鳴葉

天仁三年四月師時家奇合歌

前京定通

541

六一　汨羅投石賦百首　西三位知家卿

六五　思他人　藤原知家

興風集に興風は　六三　白雲と　続後拾雑上　六三　海　舟　峯　嶺　水　丸　殿　今　知　三行ハカトル　三字イ　難波　万四　題不知イ　延　幾　保　欲　浦　はるる　慣　け　延　幾　延　ま　ま　ま

大和歌抄 巻第二十八 終